

『(おおまかに)「80:20の法則」～入門～』

GL plus 講義録

今日は有名な「80:20の法則」についてです。とても有名なので「知っている」という人は少なくと思うけれど「実際に使いこなしている」という人は少ないと思う。

私個人でいうと、起業してからはとくに意識する法則です。仕事を立て込んで忙し時は要注意で、そんな時こそ「これは自己満足なんではないか?」「この努力は本当に成果につながっているのか?」と自問する時に役に立っています。またそういう視点で顧客さんとも関わると、案外みんな自己満足で頑張っているだけだったりするものです。

最近コーチングのクライアントさんや勉強会でも題材の一つに取り上げました。とても反応が大きかったので顧客さんへの備忘録のためにもここに簡単にまとめておきます。出典は今日はアメリカの起業家向けのレポートから。だからちょっと日本とは違う部分もあるかもしれないですが、概ね方向は同じです。

では説明を始めます。80対20は人生のあらゆる要素に当てはまる概念です。俗に言う「達成したものの80%は、費やした時間の20%によってもたらされる」「稼いだ収入の80%は、活動の20%によってもたらされる」。

これを分かっているつもりの方は多いかもしれませんが、頭で理解していることと最大限活用することは違う。他にも「犯罪者の20%が全犯罪の80%に相当する」「ドライバーの20%が全事故の80%を引き起こす」「結婚している人の20%が離婚件数の80%を占める」「カーペット全体の20%が全摩耗の80%を受ける」「疾病の20%が医療費の80%を占める」などなど。

80対20は、人生、時間、仕事、幸せ(そう、なんと幸せにまで)などすべてに当てはまるといわれます。たとえば幸せの80パーセントは、あなたが関わっている人の20パーセントがもたらしている、とか。あくまで法則による仮説ですが、極端に言えば、ふつうにしていると付き合っている人の80パーセントがあなたに幸せをくれない、という仮説ができると。仮にこの法則が事実だとしたら、日常のいかに多くの行動がこの法則に支配されているか。

難しくいうと原因と結果、投入と産出、努力と報酬の間の不均衡だということです。僕たちはふつう原因と結果は釣り合いのとれるものだところか思っている。でも実はまったく不均衡であり、その不均衡の標準的割合が、いわゆる80対20の法則なのです。

20%から結果の80%が生じ、努力の20%から報酬の80%が生じるということです。結果の80パーセントをもたらししているのは、努力の80パーセントではなく、努力の20パーセントだということです。

この法則はイタリアの経済学者ヴィルフレド・パレートによって発見されたのでパレートの法則とも言われます。1897年のことですね。きっかけは、富と所得の80%が人口の20%によって保有されており、分析された期間を見る限り、国や時代にかかわらずそうになっていることに気づいたことでした。

そして1951年、品質の神様と呼ばれるジョセフ・ジュランの「必要不可欠な少数の法則」によって再び脚光を浴びます。80パーセントの品質問題を引き起こしている20パーセントの原因に注目することにより、品質の問題を迅速かつ安価に解決することが可能であると。そして、取るに足らない大多数に目をつむることを提言したのです。しかし、現在でも圧倒的多数のビジネスマン、起業家などが、取るに足らない大多数に注目してて多忙を極めていているという現実があります。

あなたはどうですか?

ここから目を背けていると時に高い授業料を払うことになります。ただ闇雲に頑張れば報われるのではない。物事の本質をよく考えて、ポイントにエネルギーを集中しないと有効な成果が得られないというのが現実です。

もちろん厳密に20対80とは限りません。しかしおおまかに、達成したものの80%は、あなたが費やした時間の20%によってもたらされるのです。つまり、あなたのどの活動が、その20%に当たるのか特定する必要がありますよね。

闇雲に頑張っていると、費やした時間の80パーセントは、わずかに20パーセントの成果にしかつながっていないこともある。あなたはもしかしたら人生の8割の成果を生む上位2割をおろそかにしているかもしれません。

僕たちがふだんか言っている「セルフイメージ」とか「内側を大切にしたい自己実現」「強みを中心に考える」「体質にあわないことはやらない」といった基本的コンセプトや法則は、人生全体でとても大きな違いを生み出す上位20%にあたります。あなたも定期的にこういう視点を利用して、時間やエネルギーの使い方を考えてみるといいかもしれません。